

SSH SUPER SCIENCE HIGH SCHOOL

文部科学省指定

2019～2020 スーパーサイエンスハイスクール



国立研究開発法人
科学技術振興機構
Japan Science and Technology Agency

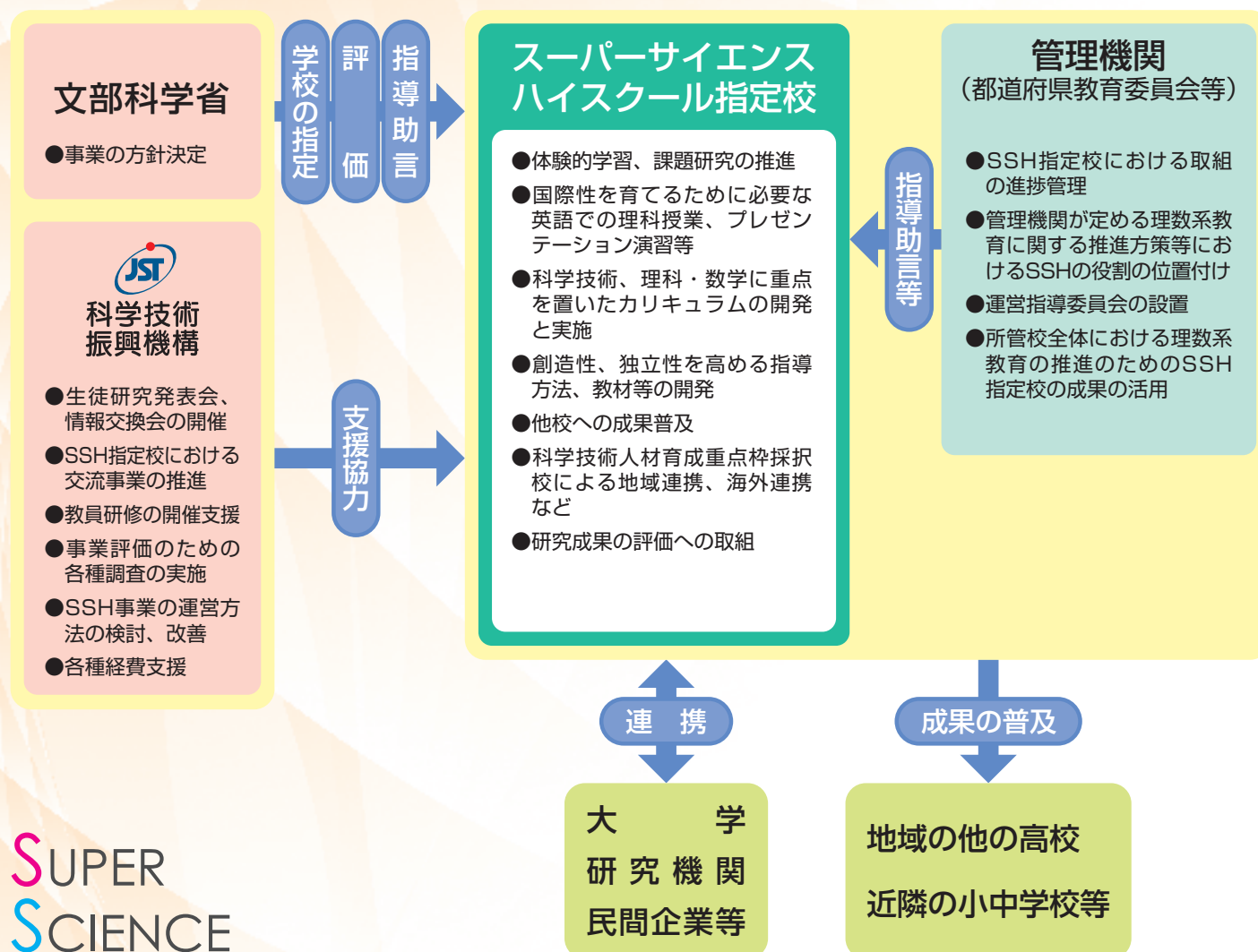


文部科学省が指定する「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」は、先進的な科学技術、理科・数学教育を通じて、生徒の科学的能力や科学的思考力等を培うことで、将来社会を牽引する科学技術人材を育成するための取組です。

SSHでは「科学への夢」「科学を楽しむ心」を育み、生徒の個性と能力を一層伸ばしていくことを目指しています。SSHでは、平成14年度より大学や研究機関等とも連携して先進的な理数系教育を実施し、魅力的なカリキュラムを開発するなど、科学技術に夢と希望を持つ、創造性豊かな人材の育成に取り組んできました。また、SSH指定校を拠点校として、地域への成果の普及などを行っています。

国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）は、SSH指定校への物品購入、研修・講師費用等の支援、並びに発表会等の企画運営などを行い、SSHと密接に連携しその取組を積極的にサポートしています。

先進的な理数系教育による創造性豊かな人材育成



科学技術人材育成重点枠（最長5年間）

SSH指定校は基礎枠の取組に加え、科学技術人材の育成に係る更なる取組を行う場合、希望すれば科学技術人材育成重点枠に応募可能。（応募のあった学校に対して審査の上、追加支援）その場合、以下5区分のいずれかの取組を行う。

- ①高大接続による一貫した理数系トップレベル人材育成プロセスの開発・実証【高大接続枠】**
…育成する人材像から導かれる資質能力を段階的に育成・評価する手法を大学と共同して開発・実証することにより、将来、我が国の科学技術を牽引する理数系トップレベル人材の育成を図る。
- ②広域連携【広域連携枠】**
…SSHの実践等で培ったカリキュラムや関係機関とのネットワーク等を広域的（都道府県全体若しくはそれ以上）に普及し、広く周辺地域全体の理数系教育の質の向上を図る。
- ③海外連携【海外連携枠】**
…海外の研究機関や学校等と定常的な連携関係を構築し、国際性の涵養を図るとともに、将来、言語や文化の違いを超えて共同で研究活動ができるような人材の育成を図る。
- ④地球規模課題に関わる社会との共創【地球規模の社会との共創枠】**
…地球規模の社会問題に関して生徒が主体的に行う科学的な課題研究について、地域の大学、企業等との連携の下に、学校として組織的な取組を行うことにより、新たな価値創造を志向する人材の育成を図る。
- ⑤その他**
…上記4つの区分以外の科学技術人材育成に資する特色ある取組。

SSH基礎枠（5年間）

SSH指定校は先進的な科学技術、理科、数学教育に関する研究開発を、以下2区分のいずれかを選択して実施。

- ①開発型**…研究仮説を一から設定・検証し、新規性のある教育課程の研究開発を実施。
申請校にはSSH指定の実績を問わない。
- ②実践型**…新規の研究仮説の設定を必要とせず、今までに開発してきた教育課程等の実践的な研究開発を実施。
申請校には過去にSSHに指定された実績があることが必要。

SSHホームページ

JSTでは、スーパーサイエンスハイスクール支援事業の情報の発信を目的としたホームページを運用しています。是非ご覧下さい！！



URL <https://www.jst.go.jp/cpse/ssh/index.html>

SSH指定校の特徴的な取組①

SSH指定校では、各学校で作成した計画に基づき、独自のカリキュラムによる授業の展開や、大学・研究機関との連携による授業、地域の特色を活かした課題研究などに積極的に取り組み、普段の高校生活では出会えない人との出会い、交流、研修による体験、発表等を行っています。SSH指定校の中から、16校の取組をご紹介します。



開発型

青森県 青森県立弘前南高等学校 | 企業・大学との連携

同校は、「地域に学び社会に貢献する科学技術人材の育成」を目標に掲げ、1年次生の探究活動では、県内15～17か所の研究機関、企業、大学を訪問し、県内の産学官が連携開発した、機能性素材プロテオグリカン、木質バイオマス発電、地下水熱利用無散融雪システムなど、地域の科学資源や技術に直接触れることで、地域理解を深め、新たな課題や問題の発見につなげています。2年次SSHクラスでは、地元の弘前大学の各研究室において講義や実験に参加し、定期的に課題研究への指導・助言を受けることで研究内容を深めています。



▲実習農場から採取したイネの分析（農林総合研究所）

宮城県 宮城県多賀城高等学校 | 防災

同校では、防災系専門学科である「災害科学科」を設置しており、防災学習を「持続可能な開発のための教育（ESD）」の観点から再構築し、「人とくらしを守り、持続可能な未来を創造する」科学技術人材の育成に学校全体で取り組んでいます。自然災害を中心素材とした領域横断的な学校設定科目や課題研究の他、大学・研究機関とのネットワークを活かした特別授業、交流校との実習交換・共同研究等を行いながら、課題発見・解決能力や情報活用能力等の現代社会における気象災害をはじめとした諸課題に対応していくために求められる資質・能力を育成しています。

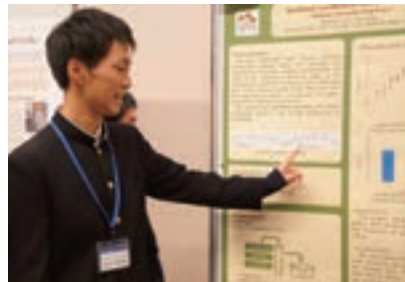


▲浦戸巡検（地層の観察・調査の様子）

実践型

茨城県 茨城県立緑岡高等学校 | 発表会

同校では、全国のSSH校が取り組んでいる課題研究等の研究成果を英語でまとめ、発表することで英語によるプレゼンテーション力の向上を目的とした「英語による科学研究発表会」を理数科2年生の運営により開催しています。地方の発表会ではありませんが、開催初年度から全国に参加を呼びかけ、参加校は過去4年間で北海道から沖縄まで日本全国に広がってきました。ポスター発表では、大学の先生方やALTと英語で質疑応答を行い、生徒同士でも英語をツールとして互いの研究の情報交換をするなど交流を深めています。



▲ポスターセッション（英語で内容説明）

東京都 東京都立小石川中等教育学校 | 課題研究

同校SSHの大きな特色は、1～6年すべての学年で課題研究（『小石川フィロソフィー』）に取り組んでいることです。課題研究に必要な基礎的スキルを独自の共通テキストを用いて学んだ後、各講座に分かれ本格的な課題研究に取り組みます。全員が成果を論文にするとともに、外国人講師の指導を受け、要旨を英語でまとめます。さらに、英国の大学における海外研修では、研究内容について大学教授からアドバイスを受けるなど、研究交流を行います。このような取組を通して、発信力を身に付けた、世界で活躍できる科学的人材の育成を目指しています。



▲課題研究発表会の様子

千葉県 千葉県立柏高等学校 | 海外研修

「水環境」を主テーマとした海外研修は前年度11月の手賀沼・筑波大での水質調査から始まります。6月にも筑波大・産総研での研修・特別探究学習を行い、その成果を同校職員・ALT・東大留学生の指導を受けながら、現地発表用の英語プレゼンテーション資料にまとめていきます。「科学英語」等の授業も含め8ヶ月間の事前指導の後、現地ではコンコルディア大学教員の指導の下、8日間の実習プログラムを実施しています。実習の最後には現地での探究テーマをもとに英語でのプレゼンテーションを行っています。参加生徒の満足度も非常に高いプログラムです。



▲米国コンコルディア大学派遣 プレゼン準備

新潟県 新潟県立長岡高等学校 | 地区合同発表会

同校は地域の理数系教育の中核拠点校として、新潟県SSH生徒研究発表会 in Echigo-NAGAOKAを企画運営しています。参加者は県内のSSH指定校のみならず、県外のSSH指定校や県内の高等学校、さらには近隣の中学校の生徒に及んでいます。

発表会では課題研究の成果発表とともに「生徒交流会」を実施しています。「生徒交流会」では参加生徒全員を他校生徒と混合した5～6人程度のグループに分け、当日提示される実技課題に取り組みます。初めて出会うメンバーと協働し、よりよい解を探ることで、課題解決力やコミュニケーション能力を育成しています。



▲長岡生徒交流会の様子

重点枠

北海道 北海道札幌啓成高等学校 | 海外連携

北海道全域の高校生が課題研究を持ち寄り、留学生、海外高校生と英語で交流する北海道国際サイエンスフェア（HISF）を主催しています。豪州の高校との海洋プラスチック汚染等をテーマとした協働プロジェクト、関連した定期的なインターネット会議、豪州及びマレーシア海外研修を実施し、生徒が作り上げる環境科学フォーラムで成果を発信しています。これらの取組を通して、国境の枠を超えて活躍する意欲・能力を高めるとともに、3地域間の恒常的な科学交流ネットワークの構築、道内の科学教育の国際化を推進しています。



▲生徒が英語で奮闘する環境科学フォーラム

滋賀県 滋賀県立膳所高等学校 | 中核拠点

同校では、県内6つの連携校の代表生徒とともに「サイエンスプロジェクト」を行っています。ここでは、生徒のグループ研究、大学研究者による講義、科学英語トレーニング、イギリス海外研修、さらに「社会との共創」をテーマとした取組も進めています。これらの事業を同校と連携校教員が共有し、各校での「総合的な探究の時間」等の指導や評価に活かしています。このような生徒の探究活動と教員の指導力向上に活かす取組の全体を「しがサイエンスコネクション」と称し、県内の人材育成と探究活動の推進を目指しています。



▲グループ研究で個別に指導助言を受けている様子

SSH指定校の特徴的な取組②



開発型

鹿児島県 鹿児島県立国分高等学校 | 科学系部活動

同校は、理数科の生徒全員がサイエンス部に所属し、課題研究を深化させるべく放課後や休業日に部活動として科学研究活動を行っています。年に3回実施される校内の発表会では、学年を超えて質疑応答を行うなど生徒同士で切磋琢磨しながら積極的に取り組んでいます。また、小中学校への出前授業や商業施設での科学イベントなども生徒主体で実施しています。こうした生徒の主体的活動の成果は、SSH生徒研究発表会で文部科学大臣表彰を受賞するなど高い評価を受け、グローバルな科学技術人材の育成に繋がっています。



▲放課後の課題研究の様子

福井県 福井県立武生高等学校 | カリキュラム開発

平成29年2月に「授業改善プロジェクトチーム」が発足し、SSH学校設定科目の取組を生かした授業研究・授業改善に取り組んできました。平成30年度には、本校が掲げるTKF(思考力Thinking、知識Knowledge、情熱・行動Frontier)の育成を目指し、教科横断型授業研究(数学×物理、物理×世界史、化学×家庭、英語×家庭、古文×地学等)にも取り組みました。これらのカリキュラム開発は、生徒の対話的・協働的な学びを通じたTKFの育成や、教員の教材開発・授業デザイン力といった授業力向上に生かされています。



▲教科横断型授業(化学×家庭)

実践型

愛知県 愛知県立一宮高等学校 | 教員研修会

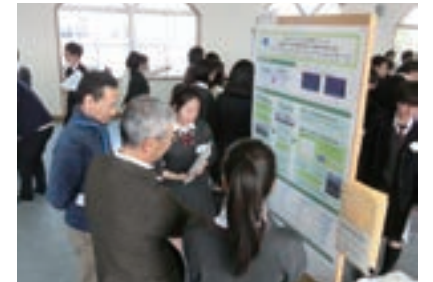
同校は、課題研究の指導法の普及をめざして「SSH課題研究教員研修会」を年3回実施しています。第一回の研修では課題研究の授業公開及び、班分けの手法である「マルチプルインテリジェンス(MI)」や探究実験の「紙コップの不思議」を参加者に体験してもらいました。第二回の研修では課題研究の発表会を公開し、さらに第三回の研修では課題研究の効果的な指導法「コーチングの実習」など、同校教員が指導する様子や教材を公開することで課題研究の普及を目指しています。現在では総合教育センターと連携することで同県の理科の初任者全員が参加する仕組みができています。



▲探究実験「紙コップの不思議」

京都府 京都府立洛北高等学校・洛北高等学校附属中学校 | カリキュラム開発

カリキュラムマネジメントの指針として、課題研究に必要な能力・スキルを6つのカテゴリと6つのステップにまとめた「洛北Step Up Matrix」を策定しました。課題研究や理科・数学だけでなく、すべての教科がMatrix上にねらいを定めた授業を行うことで、育てたい生徒像を学校全体で共有し、それぞれの教科がその特性を活かして参画する形をつくりました。さらに、Matrixを基にした評価ルーブリックや、生徒の自己評価等、さまざまな形で活用することで、カリキュラムマネジメントを統合することに役立っています。



▲サイエンスII研究報告発表会

広島県 広島県立西条農業高等学校 | 国際交流

アメリカ、イタリア、フィリピンの各姉妹校と共に大学での講義受講、研究発表、最先端技術研修を実施する等、学術的な国際交流を深めています。現在、3年後に開催する「高校生科学技術グローバルサミット」に向け、海外校との共同研究や国際学会での研究発表を進めるとともに、年間100名を超える留学生等との世界の食料・環境問題をテーマにしたグループワークや研究交流を通して、多角的・多面的にものごとを考える力やコミュニケーション能力を身に付けています。これらの取組を通して科学技術系グローバル人材の育成を目指しています。



▲海外留学生とのグループワーク

長崎県 長崎県立長崎南高等学校 | 課題研究

同校は全生徒が第一希望のテーマで課題研究に取り組んでいます。まず生徒が体験実習等を経てテーマを設定した後、教員が担当班を選びます。探究の時間が充実するよう、前日までの準備、当日のやるべきことの確認など、研究への真摯な姿勢を育みます。また、産官学50以上の外部機関研究者がポスター発表で探究の道へ誘う「未来デザインスクール」を開講し、研究相談等を通じて交流しました。部活動でのクイモの研究、授業での組織培養の研究は全国受賞し、前者は書籍化され、組織培養法については国内・海外の高校生に伝授し、高校生研究ネットワークの構築につながっています。



▲早稲田大学先端生命医科学センター実習

重点枠

山口県 山口県立徳山高等学校 | 社会との共創

同校のある山口県周南市は化学コンビナートを有し、工場が建ち並んでいます。そういった立地を活かし、県内の高校生を対象に「山口県生徒環境講座—環境について、ともに考え発信しよう—」を開催しています。講座では、地元自治体や企業がやっている環境対策について学習し、屋久島や北九州での研修を実施して地元と比較しながら環境について学んでいます。また、フォーラムを開催し、講座で学んだことやそこから発展して研究したことなどを発信しています。この講座を通じて、高校生の環境科学リテラシーの醸成・向上を目指しています。



▲屋久島研修での河川調査

千葉県 千葉市立千葉高等学校 | 中核拠点

「科学都市ちば」の中核拠点として地域の児童生徒の科学的才能の伸長を図るというテーマで、千葉市内の小中学校172校延べ70,000人の児童生徒、教職員を対象とした研究開発を行っています。例年11月には、学校種を超えた児童生徒による科学に関するポスターセッション「千葉クロススクールサイエンスフェスティバル(CCSSフェスティバル)」を千葉市教育委員会と共催で実施しています。高校生に混じり一生懸命に説明する小中学生の姿と完成度の高い発表は、児童生徒の科学的才能に今後限りない可能性を感じます。



▲千葉クロススクールサイエンスフェスティバルの様子

スーパーサイエンスハイスクール 生徒研究発表会



SSH生徒研究発表会は日本全国のSSH指定校の代表生徒が集結し、日頃の課題研究の成果を発表するイベントです。平成30年8月8日、9日の2日間にわたり、神戸国際展示場を会場にして開催され、SSH指定校関係者を中心に、約4,400名の参加がありました。

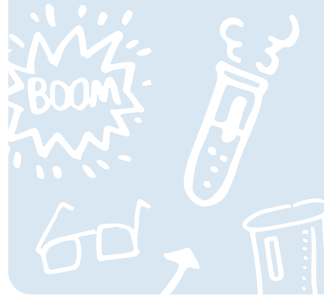
全体会

全体会では、東京理科大学特任副学長、理数教育研究センター長 秋山仁氏による講演が行われました。



ポスター発表

平成24年度～30年度指定校が、課題研究の成果やSSHの取組状況等について工夫を凝らしたポスター発表を行いました。展示物を効果的に使いながら見学者に説明したり、他校の発表を熱心に見て回って質問を投げかけたりと、大変活発な交流が行われました。



表彰

文部科学大臣表彰、国立研究開発法人科学技術振興機構理事長賞等選ばれた指定校に、表彰状が授与されました。(校名はSSH指定校番号順に記載。)

○文部科学大臣表彰 (1校)

- ・鹿児島県立国分高等学校

○国立研究開発法人科学技術振興機構理事長賞 (2校)

- ・名古屋市立向陽高等学校
- ・福島県立福島高等学校

○審査委員長賞 (3校)

- ・千葉県立船橋高等学校
- ・横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校
- ・東京都立小石川中等教育学校

○奨励賞 (7校)

- ・大分県立大分舞鶴高等学校
- ・国立大学法人名古屋大学教育学部附属中・高等学校
- ・学校法人東海大学 東海大学付属高輪台高等学校
- ・京都府立洛北高等学校・洛北高等学校附属中学校
- ・秋田県立秋田中央高等学校
- ・東京都立立川高等学校
- ・長崎県立長崎南高等学校

○ポスター発表賞 (21校)

- ・学校法人静岡理工科大学 静岡北中学校・高等学校
- ・北海道札幌啓成高等学校
- ・大阪府立豊中高等学校
- ・岡山県立倉敷天城高等学校
- ・茨城県立水戸第二高等学校
- ・国立大学法人東京工業大学附属科学技術高等学校
- ・大分県立日田高等学校
- ・学校法人札幌日本大学学園 札幌日本大学高等学校
- ・山形県立東桜学園中学校・高等学校
- ・埼玉県立松山高等学校
- ・国立大学法人筑波大学附属駒場高等学校
- ・福井県立若狭高等学校
- ・滋賀県立虎姫高等学校
- ・京都府立嵯峨野高等学校
- ・兵庫県立三田祥雲館高等学校
- ・群馬県立前橋女子高等学校
- ・愛知県立一宮高等学校
- ・三重県立津高等学校
- ・兵庫県立神戸高等学校
- ・学校法人奈良学園 奈良学園中学校・高等学校
- ・山口県立下関西高等学校

○生徒投票賞 (15校)

- ・国立大学法人京都教育大学附属高等学校
- ・大分県立大分舞鶴高等学校
- ・学校法人ノートルダム清心学園 清心中学校清心女子高等学校
- ・千葉市立千葉高等学校
- ・北杜市立甲陵高等学校
- ・学校法人西大和学園 西大和学園中学校・高等学校
- ・秋田県立横手高等学校
- ・三重県立津高等学校
- ・山口県立下関西高等学校
- ・長崎県立長崎南高等学校
- ・沖縄県立球陽高等学校・球陽中学校
- ・Archenhold-Gymnasium (Germany)
- ・Europaschule Gymnasium Papenburg (Germany)
- ・Yangil High School (Korea)
- ・Rockdale Magnet School for Science and Technology (USA)

代表校発表

1日目にポスター発表を行ったSSH指定校の中から選出された代表校6校が、全SSH指定校の生徒たちをはじめ、多くの方々の前で研究成果についての口頭発表を行いました。

代表校の発表は研究に対する熱い思いと創意工夫に満ち、活発な質疑応答が行われ、科学を通じて伝え合い、高め合う充実した発表会になりました。





教師を対象とした情報交換会の開催

SSH 指定校の教師による情報の共有と協議を行いました

各指定校のSSH授業の向上を目的に、教師を対象とした情報交換会を開催しました。平成30年度は12月25日、26日の2日間にて、約550名が参加しました。

分科会では、課題研究、SSHの取組の評価、授業改善、国際性の育成など、今後の学校で求められ

る取組をテーマに、参加者は活発な意見交換を行いました。さまざまな課題を持ち寄り共有する中で、自校の取組に活かせる解決策が見つかった、等の感想が聞かれました。



SSHから 世界と未来へ ～続くSSHとの絆～

コネチカット大学化学科 アシスタント・プロフェッサー さきがけ研究者(兼任) 萬井 知康(愛媛県立松山南高等学校 SSH 一期生 同メンター制度 発起人[初代表])

私の研究者としての始まりは SSH です。科学を学びたい、研究がしたいと考えて、理数科に入った私にとって、初年度からその恩恵を受けられたことは非常に幸運でした。SSH は高校段階では得難い様々な機会を提供してくれました。課題研究に取り組むことにより、未知に取り組むこととは何かを身をもって学ぶことができました。また、講演や講義、研究室訪問を通して、大学・研究機関の先生方の話を聞くことができ、海外に出て研究することを強く意識するようになりました。高校まで日本を出たことのなかった私が、米国の大学で学位をとり、現在は米国の大学で教鞭を執り、研究をしています。だれも知らない新しいことを知りたいという好奇心と情熱が私を含めた多くの研究者を突き動かし、その熱は周りの人に伝わっていきます。大きな熱量を持って高校生の私に接してくれた先生方のように、私も自分が受けた以上の熱量を持って、現在そして未来の生徒たちに科学研究の面白さを伝えていきたいと思っています。



▲米国研修で研究室訪問時の松山南高校の生徒とコネチカット大学の学生との記念撮影(一番右)

国際的なサイエンスフェアへの参加

海外での発表や連携の機会を積極的に提供

The 13th Conference on Science and Technology for Youth (第13回青年科学技術会議)

■主 催 The Institute for the Promotion of Teaching Science and Technology (IPST)

■日 程 平成30年7月15日から17日まで

■開催地 タイ王国バンコク都

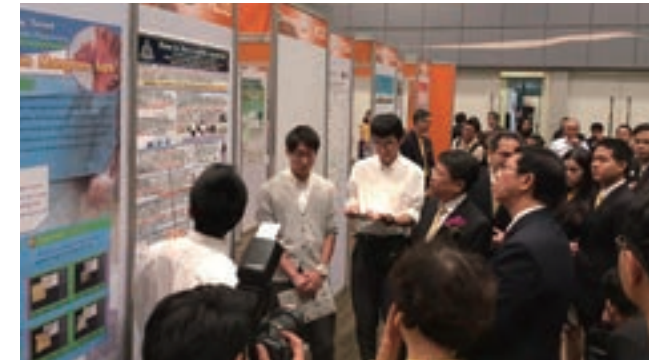
■参加SSH指定校

秋田県立秋田中央高等学校

長崎県立長崎西高等学校

■主な感想

- ・参加者との交流を通して科学を学ぶ者としての姿勢を知り、グローバル化を体感することができた。
- ・研究内容がどれもハイレベルで最新の機材を使った研究が多く、とても驚いた。



33rd China Adolescents Science and Technology Innovation Contest (第33回中国青少年科学技術イノベーションコンテスト)

■主 催 China Association for Science and Technology (CAST)

■日 程 平成30年8月14日から20日まで

■開催地 中華人民共和国 重慶市

■参加SSH指定

兵庫県立加古川東高等学校

奈良女子大学附属中等教育学校

■主な感想

- ・海外の高校生の国際意識の高さに驚いた。今後はより一層世界全体に目を向けて、ものごとを考えていこうと思った。
- ・国際的な視点で研究内容の評価ができ、自らの優れていることと劣っていることがはっきりと確認できてよかった。



実施による効果

生徒の科学技術への興味・関心や姿勢に関する効果

SSHの取組を通して、科学技術に関する学習意欲や未知の事柄に対する興味等について向上。

■科学技術に関する学習に対する意欲が向上したと回答した生徒：62%

■未知の事柄への興味（好奇心）が向上したと回答した生徒：79%

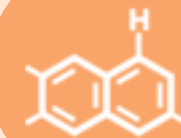
■自分から取り組む姿勢（自主性、やる気、挑戦心）が向上したと回答した生徒：71%

■真実を探って明らかにしたい気持ち（探究心）が向上したと回答した生徒：71%

【平成30年度SSH意識調査】 [国立研究開発法人科学技術振興機構]

SSH指定校①

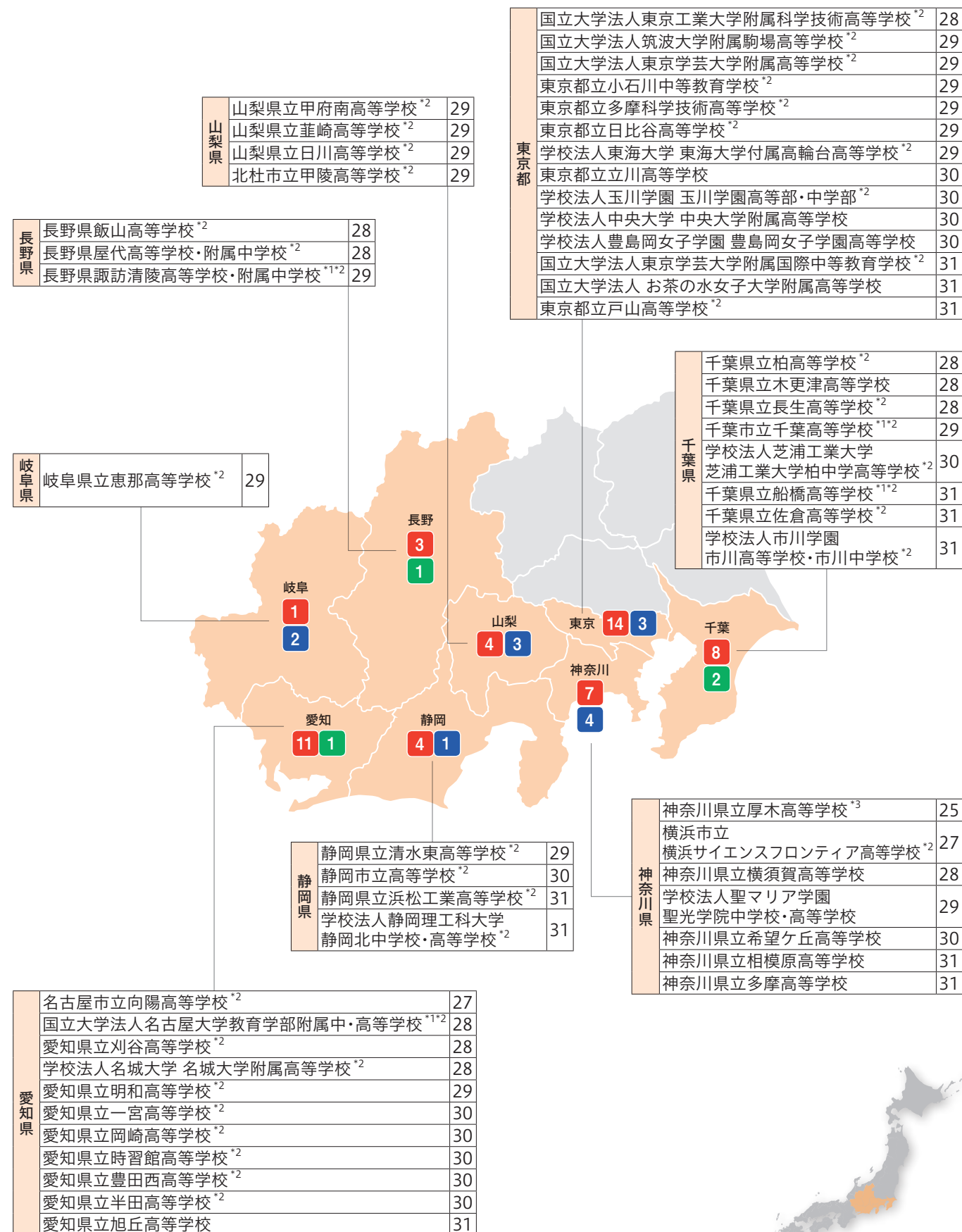
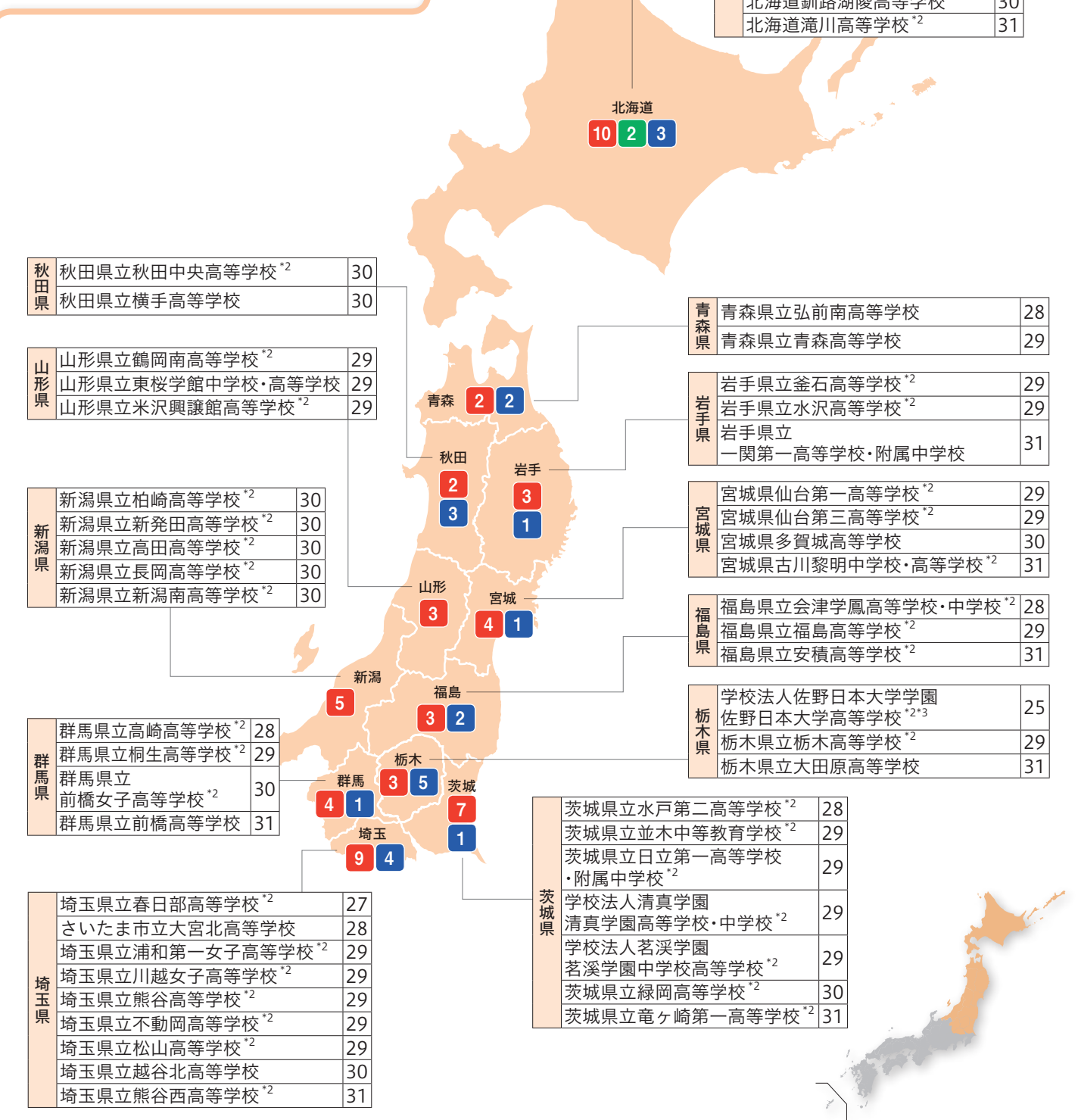
令和元年度スーパーサイエンスハイス クール指定校一覧（212校）



- 指定校
科学技術人材育成重点校
（指定校の内数）
すでに指定を終了した学校

都道府県	学校名*	指定年度
------	------	------

*1：科学技術人材育成重点校
*2：指定終了後、再度指定された学校
*3：5年間の指定後、経過措置1・2年の指定を受けた学校





指定校名	種 別	科学技術人材育成 重点枠指定年度	指定 年度	
北海道札幌啓成高等学校	海外連携	2017 -2019	3年目/3年	27
学校法人立命館 立命館慶祥高等学校	海外連携	2017 -2019	3年目/3年	29
千葉市立千葉高等学校	中核拠点	2018 -2020	2年目/3年	29
千葉県立船橋高等学校	高大接続	2019 -2023	1年目/5年	31
長野県諏訪清陵高等学校 ・附属中学校	社会との共創	2017 -2019	3年目/3年	29
国立大学法人名古屋大学 教育学部 附属中・高等学校	その他	2018 -2020	2年目/3年	28
滋賀県立膳所高等学校	中核拠点	2018 -2020	2年目/3年	28
京都市立堀川高等学校	中核拠点	2018 -2019	2年目/2年	27
学校法人立命館 立命館高等学校	海外連携	2019	1年目/1年	27

指定校名	種 別	科学技術人材育成 重点枠指定年度		指定 年度
京都府立嵯峨野高等学校	その他	2017 -2019	3年目/3年	29
大阪府立天王寺高等学校	中核拠点	2017 -2019	3年目/3年	29
兵庫県立尼崎小田高等学校	社会との共創	2018 -2019	2年目/2年	27
兵庫県立神戸高等学校	広域連携	2019 -2022	1年目/4年	30
奈良県立奈良高等学校	中核拠点	2017 -2019	3年目/3年	29
山口県立徳山高等学校	社会との共創	2017 -2019	3年目/3年	27
香川県立観音寺第一高等学校	広域連携	2019 -2021	1年目/3年	29
大分県立大分舞鶴高等学校	中核拠点	2018 -2019	2年目/2年	27
宮崎県立宮崎北高等学校	広域連携	2019 -2023	1年目/5年	31

北海道札幌道高等学校、北海道帯広栢葉高等学校、北海道札幌北高等学校、青森県立三本木高等学校・附属中学校、青森県立八戸北高等学校、岩手県立盛岡第三高等学校、宮城県宮城第一高等学校、秋田県立大館鳳鳴高等学校、秋田県立横手清陵学院中学校・高等学校、秋田県立秋田北鷹高等学校、福島県立磐城高等学校、福島県立相馬高等学校、茨城県立竹園高等学校、学校法人白鷗大学 白鷗大学足利高等学校、学校法人作新学院 作新学院高等学校、栃木県立宇都宮高等学校、栃木県立宇都宮女子高等学校、栃木県立足利高等学校、群馬県立高崎女子高等学校、埼玉県立熊谷女子高等学校、学校法人早稲田大学 早稲田大学本庄高等学院、埼玉県立川越高等学校、埼玉県立大宮高等学校、学校法人早稲田大学 早稲田大学高等学院、東京都立科学技術高等学校、学校法人文京学院 文京学院大学女子高等学校、神奈川県立西湘高等学校、神奈川県立神奈川総合産業高等学校、学校法人慶應義塾 慶應義塾高等学校、神奈川県立柏陽高等学校、富山県立高岡高等学校、富山県立富山高等学校、学校法人山梨英和学院 山梨英和中学校・高等学校、山梨県立巨摩高等学校、山梨県立都留高等学校、岐阜県立岐阜農林高等学校、岐阜県立岐山高等学校、静岡県立磐田南高等学校、三重県立津西高等学校、京都府立桂高等学校、大阪府立園芸高等学校、大阪市立東高等学校、大阪府立北野高等学校、兵庫県立大学附属高等学校、和歌山県立日高高等学校・附属中学校、和歌山県立桐蔭高等学校、鳥取県立鳥取東高等学校、学校法人大和多学園 開星中学校・高等学校、島根県立松江東高等学校、学校法人加計学園 岡山理科大学附属高等学校、学校法人金光学園 金光学園中学校・高等学校、学校法人安田学園 安田女子高等学校、広島県立広島国泰寺高等学校、山口県立岩国高等学校、山口県立山口高等学校、香川県立三本松高等学校、福岡県立嘉穂高等学校、福岡県立八幡高等学校、福岡県立修猷館高等学校、学校法人コングレガシオン・ド・ノートルダム 明治学園中学校・高等学校、長崎県立諫早高等学校、沖縄県立開邦高等学校

SUPER SCIENCE HIGH SCHOOL

文部科学省指定

2019～2020 スーパーサイエンスハイスクール

